

ヒアリング実施結果

1. ヒアリング実施概要

●日時:2月12日、14日、19日、20日、21日(5日間)

●対象

- ・ 北はりま田園空間博物館
- ・ 西脇市動植物生態調査研究グループ
- ・ 市民エコ会議
- ・ 但馬銀行西脇支店
- ・ 兵庫県猟友会 西脇多可支部
- ・ 協同組合西脇商連
- ・ 兵庫県繊維染色工業協同組合
- ・ 農家(藤原氏)
- ・ 西脇市花と緑の協会
- ・ 株式会社 いけうち 西脇工場
- ・ 佐藤果実工房
- ・ 加古川漁業協同組合
- ・ 播州釣針協同組合
- ・ 日清ヨーク株式会社 関西工場
- ・ 西脇市保健衛生推進委員会
- ・ 西脇環境づくり市民会議
- ・ 播州織工業組合
- ・ 西脇市消費者協会
- ・ サントリーホールディングス株式会社

●ヒアリング内容

- ・活動内容
- ・抱えている課題
- ・地域の状況 等について

2. ヒアリング結果

ヒアリング結果（抜粋）	計画策定反映にあたっての視点
<p>●地域の現状</p> <p>【人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北はりま田園空間博物館のサテライトは、増減がありながらも 200 前後 ・高齢化等でやめるケースもあるが、後継者（事業継承）が出来たケースもある。 ・サテライトでは地域の歴史の掘り起しをしようと検討中である。 ・高校生とトライアルアクションやボランティアなどを通じて、地域と接点をつくることも重要。 <p>【農作物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菊芋は、5～6 年一押で栽培しており、栽培農家も増えている。 ・150 の農家が北はりま田園空間博物館で販売している。 ・サテライト同士の連携として、農家と喫茶店が連携しているケースもある（苺園で買った苺を持ち込むとパフェにしてくれる）。 <p>【交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サテライト同士の交流が出来ていない。 ・市からの働きかけで、他団体と協働の取組も実施している。 <p>【祭り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祭りは担ぎ手が不足している。青年層がいない地域では維持が難しくなっているのではないか。 ・祭りの時に帰ってくるということも残っている地域があるが、乗子が少なくなっている。 	<p>○地域を支える担い手</p> <ul style="list-style-type: none"> ・200 前後のサテライトなど、地域を支える担い手が、現時点では維持出来ている状況である。 <p>○新たな担い手の確保・事業継承が課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世代間交流の場や活動団体同士の交流の場が少ない。 ・地域活動と高校生とのつながりなど、現在活動している人と次世代との交流の場を積極的に設けていくことが重要。 <p>○地域の核としてのお祭り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の核として存在している一方、担ぎ手等は減少。 ・地域によって、維持に差が出つつある。
<p>●産業・経済について</p> <p>【気風】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田んぼ持ちの事業者なので食べるものはある。稼ぎは遊びにという感じが多い。 ・喫茶店とスナックとパチンコ屋が多い。家内制手工業が多いことから、お客さんと喫茶店に行くことで喫茶店文化が発達したのではないか。 ・外食産業も発達している。 <p>【経済】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預貸率が高い。 ・商売人の目がある。 ・30～40 代の経営者も入ってきている。一方、JC は減っており、20 人くらいである。 <p>【商業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化しており、商連も 100 軒くらいから 30 軒に減少している。 ・元気なのは、しばざくら商店街である。また、新しい加入者としては飲食関係である。 ・共同ちらしを月 1 回神戸新聞に入れている。 ・飲みに行く人が少なくなり、タクシーが減り、また店が減るといった悪循環が出来ている。 	<p>○気風</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30～40 代の新規参入など、チャレンジする気風が残っている。 ・若手農家等は、直販や気候変動への影響への対応など新たな取組を行いつつある。 <p>○産業と環境のつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「水」を魅力として立地している。発信及びこのポテンシャルを維持するための取組が求められる。 <p>○伝統産業等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状の取組のままでは、維持が困難な状況となっており、体制等、過渡期を迎えている。 ・他組合同士の連携なども必要。 <p>○地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域からの要望等により、環境製品（ミスト等）の貸し出し

<p>【繊維業界】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和 63 年がピークであった。 ・染色、織、加工、産元と組合が分かれており、業界としては過渡期に来ている。 ・排水処理等は更新期を迎えている。 ・織物工業では、130 軒のうち、後継者がいるのは 20 軒程度。資本投資をするかどうかが課題となる。 <p>【釣針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毛鉤の伝統工芸士 5 名（4 名が 80 歳手前。50 歳手前 1 人。） ・後継者がほしいが、給与を払うとなると難しい。 <p>【農業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接販売する活動として、稲作経営者会議に参加し、2 代目が集まって取組を実施。 ・有機肥料にも取り組んでいる。 ・気候変動の影響が出つつあり、品種選定なども含めて勉強中である。 <p>【製造業（いけうち、日清ヨーク）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミストについては、気候変動の影響から畜産業、農業や公共施設、幼稚園、老人ホームなどに採用されている。（夏季の熱中症対策に加えて、冬の加湿用としてインフルエンザ対策などに活用）農業はここ 5 年間でシェアを拡げてきている。 ・導入効果等については、ホームページ等でも公開を行っている。 ・熱心な農家等にミストの設備が導入されていっている。一方、初期投資がハードルとなる。 ・まずは、市は普及啓発等に取り組んでほしい。 ・地域とのつながりについて、祭りの際に移動式のミストを貸してほしいという要望があり、貸し出している。 ・子どもが外に出ることができる環境をつくっていききたい。 ・西脇市へは、「水」を求めて、立地することを決めた。 ・地域のお祭りへは商品提供を行っている ・工場への太陽光発電を検討したが、維持管理が難しく断念した。 ・完全管理のため、気候変動の影響は特にない状況。 ・食品ロスについて、問屋から戻ってきて、工場で廃棄している。 ・脱プラスチックについては、周りを見ながら進んでいく状況である。現時点では、コストがまだ高い。 	<p>や商品提供などの取組例がある。</p> <p>○市の取組の可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境商品に関する地域への貸し出し（移動式ミストの貸し出し）など、現在の個々事例の市域への面的な展開や取組の普及啓発等が考えられる。 ・出来るだけ、多分野の業種や地域が関わることのできる取組が望ましい。
<p>●生態系について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来生物が増えた。森林の林縁部が芝山だったところが、鬱そうとし、獣害を招いている。バッファゾーンを作った方がよい。 ・先輩に話を聞く機会が少なくなっている。 ・これまでの活動結果（標本、記録等）の引継ぎ手がない。 ・湿地の再現も課題である。 	<p>○地域の環境のベースとなる森林</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林の荒廃が、獣害や河川環境の地域環境にも影響を及ぼしている。 ・サントリー天然水の森の取組を参考に、他地域・他企業の取組へ展開していくことが求められる。

<p>【獣害】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 猟友会の人数は今年 50 人増えているが、全体としては均衡している状況である。2 年くらいで 1 人前となる。 ・ 罾は、独自の技術で実施している者が多い。自ら罾を作っている者も半分くらいいる。土日は 10 人グループで活動。 ・ 猪、鹿のほか、あらいぐまやヌートリアの被害も深刻である。 ・ 被害軽減には、山の見通しを良くしてやることも重要である。 ・ 猟友会メンバーには、キノコを採るのを楽しみにしている者もいる。 ・ 地域のイベントで猟友会のアピールの一環として、解体、振る舞いを行った。 <p>【森林整備の取組（サントリー 天然水の森 ひょうご西脇門柳山）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 汲み上げている倍以上のエリアを対象として活動（西脇：600ha）を行っている。 ・ 天然水の森を育む活動は本業として取り組んでいる。 ・ 有識者の指導のもと、北はりま森林組合が施業している。北はりま森林組合は、全国の天然水の森での技術主導を行うなど、技術を有する。 ・ 今後、育林材の活用もしていきたい。 ・ 気候変動の影響としては、台風や水害の規模が大きくなっている。災害復旧にコストがかかる状況である。また、温暖化により鹿も増えている。 <p>【漁業・河川】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業で食べることは困難になってきている。 ・ 山が荒れていることが、河川や海の環境悪化にもつながっている。 ・ 河川工事等、生態系を配慮した取り組みが出来ていない（特に、支流について）。また、工事によって魚が住めない環境になっている。 ・ 川に触れる機会が少なくなっている。楽しんでもらったり、気晴らししてもらったり出来ることも創出していきたい。 	<p>○生態系維持（伝承）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 河川等の工事における生態系への配慮した取組が課題であるが、その要因としては、担い手不足（庁内含め）も考えられる。 ・ まずは、人づくりから実施していくことが求められる。人づくりについては、まずは身近に触れる機会の創出、また守る人の育成など、段階的な取組が求められる。 ・ 単独の組合だけでは、活動の維持などは難しく、他組合との連携や市民活動団体との連携、市との連携など多様な連携創出が必要である。
<p>●市民活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不法投棄について、シルバー人材センターもパトロールしているが、なかなか大きいものは引き上げられない。 ・ 道端も、綺麗にしないと、ごみを捨てやすい場所になってしまう。 ・ これまでの活動を責任感として実施しているが、効果があるのか疑問がある部分もある。 ・ 啓発活動も、集まる方は意識の高い方で、無関心層へ輪を広げていくことが難しい。 ・ しばぎらの取組も、詳しい方に聞いて、増える時期などを調整している。 ・ 40 代、50 代を誘うのが難しい。活動へはセミナー開催などをきっかけに参加するケースがある。 ・ 全体の盛り上がりや新たな担い手確保を行うため、寄せ植えコンテストを計画中である。 ・ 会員を増やしていくことが課題である。（30 歳くらいからやろうと思っていないと長続きしない） ・ 市の働きかけによる活動は、出来た時はトップダウンで出来るが、そこから自発的活動へが難しい。 ・ 活動が増えたり、人が増えたりするにあたって、当初の目標を維持することが難しい。各団体をつなぐ取組をしていきたい。 	<p>○次世代継承のタイミングの難しさと新たな活動の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各団体の主流の担い手が他地域と比べても高齢化しており、次の世代への継承のタイミングが難しくなっている。 ・ 技術等は受け継ぎつつも、目的や活動については時代とともに変遷することから、新たな担い手や世代が楽しんで取り組める機会の創出が必要である。